

第36代本部長に江上昌利 1等海佐が着任



初めまして。私は、6月28日をもって、前任の西田1等海佐から第36代自衛隊長崎地方協力本部長を引継ぎました江上1等海佐です。皆様におかれましては、平素から長崎地方協力本部の業務に対して深いご理解と多大なご支援を賜り、長崎地方協力本部を代表し、御礼を申し上げます。

また、長崎地方協力本部が地域の皆様と防衛省・自衛隊との「かけはし」になるという責任の重さを考えますと、改めて気を引き締めるとともに、その役割を果たすべく真摯に取り組んで行くことと固く決意するところであり、あります。

さて、我が国周辺を含むアジア・太平洋地域における安全保障環境は日々変化しており、既存の秩序をめぐる不確実性が増大している情勢下において、防衛省・自衛隊では宇宙・サイバー・電磁波等、新たな領域における能力と陸海空の従来領域におけ

る能力を有機的に融合した領域横断的作戰能力の構築を推進するとともに、各種事態に對しシームレスかつ機動的に對応し、日々任務に従事しているところであり、ますが、これらの取り組み・活動には、皆様のご理解とご支援が不可欠であることは論を俟たないところであります。

また、地方協力本部は、自衛官採用から退職する自衛官再就職支援、そして予備自衛官の管理等、自衛隊の人的基盤を支える極めて重要な任務を担っています。これらの任務達成にも、地域社会の皆様のご理解とご支援が必要であります。

私共長崎地方協力本部は、皆様からのご理解とご支援を頂くため、誠心誠意取り組み、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

最後に、改めて日頃の皆様のご支援に感謝致しますとともに、皆様との「かけはし」となりますことをお願いし、着任のご挨拶とさせていただきます。



6月28日付で、第35代自衛隊長崎地方協力本部長 西田1等海佐は、補給本部（十条）にご栄転されました。西田本部長は、統率方針「県民とのかけはしになる」、要望事項「誠心誠意」・「チームワーク」を掲げ、令和元年8月から約2年間の勤務されました。在任中、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、各

第35代 西田本部長離任式

種地方協力本部業務に制約を受ける中、創意工夫と感染対策を講じつつ、各首長、協力諸団体の長等を訪問するとともに、緊密な連携を確立して、県民の防衛省・自衛隊に対する理解の促進と信頼継続に努められました。募集業務においては、厳しい募集環境が継続する中、学校訪問等を実施するとともにSNS等の有効活用等各部員を的確に指導し、数多くの入隊者を獲得されました。就職支援業務においては、優良な求人情報の獲得に努め、退職隊員のニーズに合致した就職援助を推進するとともに、退職隊員の再就職基盤を拡充されました。

また、予備自衛官業務においては、予備自衛官等との連携強化を図るため、予備自衛官通信の刊行、予備自衛官の隊員自主募集等、予備自衛官等の充足数及び訓練出頭率の方面目標達成に尽力されました。

6月28日（月）に行われた離任式において、西田本部長は「皆と一緒に勤務できたことを誇りに思う。ありがとう。長崎地本の益々の発展と健勝を祈念する。」と述べられ離任式を終了しました。

最後に、部員の見送りを受けて、西田本部長は笑顔で長崎地本を後にされました。

追悼行事「いのりの日」へ参加



当日は悪天候の中、多くの参列者が現地を訪れ、慰霊碑前では朝から献花が行われた。また、大火砕流が発生した午後4時8分には、島原市全域でサイレンが鳴り、多くの市民が黙禱し、犠牲者の方々への追悼が行われた。

なお、予定されていた陸上自衛隊のヘリコプターによる慰霊飛行は、悪天候のため中止となった。

島原地域事務所は、参列者に対し、慰霊碑前に展示されているヘリコプター及び装甲車や雲仙普賢岳噴火災害資料について、案内及び説明を行った。

また、この災害で1658日間という長期にわたった自衛隊の災害派遣活動のほか、当時の状況や教訓などを後世に伝えるための取り組みを島原市と共に行い、地域住民の自衛隊に対する理解の深化に努める。（島原地域事務所）



国家を守る、公務員。
自衛官募集中



発行所
自衛隊長崎地方協力本部
長崎市出島町2番25号
Tel. 095-826-8844

長崎地本公式HP

長崎地本公式 Twitter

長崎地本公式 Instagram



若年定年退職予定隊員インターンシップ を実施（令和 3 年度 第 1 回目）

長崎地本（前本部長 西田洋一郎 1 海佐）は 6 月 7 日（月）から 11 日（金）、長崎県内で若年定年退職予定隊員向けのインターンシップを実施した。本施策は、若年定年退職予定隊員に対して企業でのインターンシップを実施し、再就職先となる職域の拡大、再就職者の早期離職防止を図るとともに、インターンシップ受入企業に対し自衛官の有用性を周知することを目的に実施している。

県内から 4 名の隊員が参加し、佐世保市内の 4 社の協力を得て、各企業において業務体験や O B 隊員との懇談等が実施された。参加隊員からは再就職先選定や取得すべき資格について参考になり、再就職に対する不安や疑問の解消が図れたと好評を博し、企業からも参加隊員のきめ細やかな仕事ぶりなどを賞賛していただき、自衛官の有用性を周知も図ることができた。

最終日には参加者と地本担当者で意見交換会が実施され、運輸業のインターンシップ参加者からは「これからフォークリフトの資格を取得して倉庫管理もありかなと考えていたが、今回現場であまりに高いレベルの操作技術を見て、自分には無理だと悟った。考えが甘かったことに気付いた。」との意見

も聞かれ、参加隊員の再就職先選定に当事業が機能していることが覗えた。長崎地本は、今年度さらに 2 度の若年定年退職予定隊員インターンシップを計画し、隊員が安心して第 2 の人生を出発できるよう就職の援助を充実させていく。

（援護課）

公益財団法人長崎県自衛隊家族会と 自衛隊長崎地方協力本部との間における協定書の締結

長崎地本（前本部長 西田洋一郎 1 海佐）は 6 月 23 日（水）、自衛隊長崎地方協力本部庁舎において、公益財団法人長崎県自衛隊家族会と自衛隊長崎地方協力本部との間で「入隊予定者に係る個人情報取扱い」に関する協定書を締結した。

本件は、新型コロナウイルス感染症拡大によって、入隊（校）予定者激励会の開催ができないことにより、家族会への入会案内が全国的に困難な状況にあった。このような現状を改善すべく、全国自衛隊家族会からのメッセー지를受けた長崎県自衛隊家族会の浦田会長から自衛隊長崎地方協力本部への申し入れにより、2 月以降、長崎県自衛隊家族会と自衛隊長崎地方協力本部との間で協議を重ね、協定書の締結に至った。

この締結によつて、本年度以降も見込まれる厳しいコロナ情勢下においても、新たな入隊隊員の家族に対する長崎県自衛隊家族会への入会促進に繋げることができ、今後の長崎県における自衛隊家族会の発展と充実を図るとともに、自衛隊長崎地方協力本部と連携を深化させていくこととされている。

（募集課）



協定書に押印する長崎県自衛隊家族会 浦田会長



協定書に押印する自衛隊長崎地方協力本部 西田前本部長

第 1 回自衛官候補生試験

長崎地本（前本部長 西田洋一郎 1 海佐）は、令和 3 年 6 月 5 日（土）及び令和 3 年 6 月 6 日（日）の 2 日間をもって、第 1 回自衛官候補生試験を実施した。

この試験には、県内の 60 名（男子 41 名、女子 19 名）の志願者が筆記試験、適性検査及び口述試験並びに身体検査を受験した。この自衛官候補生の制度は、入隊と同時に「自衛官候補生」に任命され、約 3 か月の間、自衛官として必要な資質を高めるため、自衛隊の組織、編成、規則、礼式などの基本的な技能を学び、陸上自衛官が 1 年 9 か月、海上・航空自衛官が 2 年 9 か月勤務する制度で、任用期間内は職務を通じて体力と技術を磨きつつ、それらに関係する資格取得も目指せる。

任期を終えても次期の継続任用が可能であり、更には選抜試験等を受験して曹を目指すこともできる。

今回の試験のみならず、8 月、9 月、12 月にも自衛官候補生試験を予定しており、今回以上に多くの志願者が予想される。今後、一人でも多くの若者が自衛官という職業の魅力を理解して志願してくることを祈念しつつ、日夜、募集活動に全力で取り組んでまいりますので、引き続き、皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

（募集課）



お世話になりました



人事
【定年退職】

3 等陸佐 小笹 真千夏
令和 3 年 6 月 19 日付